

日本人とツバメ

校長 山口 佳之

5月になり、白糸小学校ではたくさんのツバメがうれしそうに飛んでいます。最初はその数に驚きましたが、観察しているうちにその理由が分かりました。白糸小学校の校舎の作りが巣作りに最適なのです。各階に軒がせり出し雨風を防ぐ作りになっています。どの教室の窓の外にも、ツバメが巣を作っていて快適なマンションのようになっています。

一方では、その糞対策に悩むところです。職員室や保健室は、窓の外から声を掛けてくださるお客様もいらっしゃるので、清潔にしておきたいところです。「ここには、巣を作らないでね。」言葉が通じるならば、お願いしたいところです。車にも靴にも糞がついてきれいにするのが大変な時もあります。

そこで、朝礼で子供たちに「ツバメをどうしたらよいか？」を投げ掛け、短い道徳の授業を試みました。

- A ツバメの巣を壊してしまう
- B ツバメが来ないようにする
- C ツバメの糞が落ちないようにする
- D ツバメの糞をそうじする

子供たちは、それぞれ自分だったらどうするか考えて友達に理由を説明しました。

「壊してしまうのは、ツバメがかわいそうだなあ。でも糞は汚いしなあ・・・。」

こう悩みながらも、ツバメを思うやさしさが感じられる意見がたくさん聞こえました。ちなみに、Aを選択した子は一人もいませんでした。そこで、街中で見かける「上にツバメの巣があります。ご注意ください。」という表示や、「ツバメ子育て中。やさしく見守ってください。」と表示して、改札口を一つ閉鎖した京王線の写真を提示しました。そこから、「なぜ、みんなツバメの巣を壊さないのでしょうか」と問い掛けました。

ここから、日本人とツバメの関係が見えてきます。米作りが盛んな日本では、ツバメは飛んでいる害虫を食べてくれるありがたい鳥だと考えられてきました。春になると南の国から飛んできて、日本に春や夏を告げる渡り鳥です。毎年、日本人はお客さんとして歓迎してきました。ツバメは、日本で産卵し子育てをします。その姿を、人間から見えるところに平気で巣を作って見せるところが他の鳥とは大きく違うところです。人が生活しているところでツバメも安心して長い間暮らしてきたのです。きっと日本人の優しさをツバメもよく分かっているに違いありません。そして、日本人は、「ツバメの巣がある家は火事にならない安全な家」と信じていたそうですから、巣を壊したり、ツバメを追い出したりしようという考えは昔からなかったようです。こうして今でも日本人は、寛大な心で子育てを見守っているのだと思います。

もちろん、鳥獣保護法で守られていますから、卵やツバメを傷つけたら罰せられるから巣を撤去しないという考えもありますが、子供たちの素直なツバメへの優しい気持ちを大切に育てたいと思います。そして、これが他の人への優しさを考えるきっかけになってほしいと考えました。

ツバメが越冬のため南の国へ飛び去る日まで観察するのも学習になりそうです。

※4月23日(火)の遠足の中で行われた笑顔ニコニコ委員会の「○×クイズ」にこんな問題がありました。「学校の中で一番楽しいのは、授業である。○か×か?」それを聞いて一瞬ドキッとした私をはじめとする教師たち。みんなは、どちらに行くの?正解は何?ドキドキしながら様子を見てみると、多くの子供たちが○を選択してくれました。そして正解は・・・出題者は、「×が多いと思ったけど○が多くてよかったです。」と臨機応変の対応。子供ってすばらしいなと思いました。今度は、本当に「一番楽しいのは授業」と言ってもらえるようがんばります。